

理ニ各局部ノ事務ヲ監督ス  
第十七條 削除  
第十七條ノ二 削除

追加日清通商航海條約御批准ノ件  
右謹テ上奏シ恭シク  
聖裁ヲ仰キ候セテ樞密院ノ議ニ付  
セラレムコトヲ請フ

明治三十六年十一月二十一日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル  
大日本國皇帝(御名)此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス  
朕明治三十四年九月七日清國北京ニ於テ帝  
國外十箇國全權委員ト清國全權委員トノ  
間ニ記名調印シタル議定書第十一條ノ規  
定ニ基キ明治三十六年十月八日上海ニ於テ  
帝國全權委員ト清國全權委員トノ間ニ記  
名調印シタル追加日清通商航海條約ノ各條

目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百六十三年  
明治三十六年 月 日東京宮城ニ於テ  
親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣男爵小村壽太郎

追加日清通商航海條約

大日本國皇帝陛下及

大清國皇帝陛下ハ明治參拾四年九月七日即光緒貳拾七年七月貳拾五日北京ニ於テ調印セラレタル最終議定書第拾壹條ノ規定ニ充分ノ效力ヲ與ヘムカ爲メ日清兩國間ノ通商關係ヲ簡易ニシ且増進セシムルヲ目的トシタル追加通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲メニ

大日本國皇帝陛下ハ公使館壹等書記官從五位勳五等日置益總領事正六位勳五等小田切萬壽之助ヲ

大清國皇帝陛下ハ工部尙書呂海寰太子少保前工部左侍郎盛宣懷商部左侍郎伍廷芳ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條項ヲ協議決定セリ

第壹條 清國ハ其ノ財政制度ヲ改正スル目的ヲ有シ而シテ釐金制度ノ全廢ニ依リテ生スヘキ缺損ノ一部ヲ填補スル爲メ海關又ハ内地及國境ノ稅關ヲ通過スル各種貨物ニ對シ關稅ノ外ニ附加稅ヲ徵收スルコトヲ提議シタルヲ以テ日本國ハ清國カ各條約國ト協議ノ上決定スルモノト同率ノ附加稅ヲ支拂フコトヲ承諾ス

清國ノ徵收スル生産税消費税機械製造品税又内國産鴉片及鹽ノ税ニ關シ日本國ハ各條約國カ清國ト協議決定スヘキ同一ノ取極ニ依ルコトヲ承諾ス  
但シ本條ノ爲メ日本國ノ貿易權利及特權ハ他國ノ貿易權利及ヒ特權ニ比シ何等不利益ノ地位ニ置カルコトヲナルヘキコト勿論タルヘシ

第貳條 清國政府ハ日本國汽船所有者カ自己ノ費用ヲ以テ揚子江宜昌重慶間ノ急流曳上セノ爲メニ設備ヲ爲スコトヲ承諾ス然レトモ右ハ四川湖南湖北各省人民ノ利害ニ關スル處アルヲ以テ其ノ設置前清國海關ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

右設備ハ汽船及清國形船舶共ニ之ヲ使用スルコトヲ得ヘキモノニシテ水路又ハ清國形船舶ノ自由航行若ハ沿岸道路人民ノ交通ヲ妨クルコトヲ得ス右設備ニ關シテハ清國海關ニ於テ制定スヘキ特別規則ニ從フヘシ

第參條 清國政府ハ内河航行ニ適スル各種ノ日本國汽船カ清國海關ニ届出テノ上内地水路汽船航通規則及同追加規則ニ依リ貿易ノ目的ヲ以テ清國開港場ヨリ其ノ届出テタル内地ニ航行スルコトヲ承諾ス

第四條 清國臣民ニシテ日本國臣民ト共同シテ正當ナル目的ヲ以テ組合又ハ會社ヲ組織スル場合ニハ契約又ハ覺書並定款及右ニ基キ作りタル細則ニ據リ右組合及會社ノ各員ト共ニ公平ニ損益ヲ分ツモノトス又右清國臣民ハ自ラ承認シ且日本國裁判所ノ解釋ニ從フヘキ該契約又ハ覺書並定款及右ニ基キ作りタル細則ニ定メタル義務ヲ履行スヘキモノトス若清國臣民ニシテ斯ク定メタル處ノ義務ヲ履行セサルカ爲メ訴訟ヲ提起セラレタルトキハ清國裁判所ハ直チニ右義務ノ履行ヲ強制スヘシ

日本國臣民ニシテ清國臣民ト共同シテ組合又ハ會社ヲ組織スル場合ニハ契約又ハ覺書並定款若ハ之ニ基キ作りタル細則ニ據リ公平ニ損益ヲ分ツヘシ若日本國臣民カ契約又ハ覺書並定款若ハ之ニ基キ作りタル細則ニ定メタル處ノ義務ヲ履行セサルトキハ日本國裁判所モ亦右同様直チニ義務ノ履行ヲ強制スルコト勿論タルヘシ

第五條 清國政府ハ清國臣民カ日本國臣民ノ有スル登録濟商標ヲ侵害スルヲ禁遏スル爲メ必要ナル規則ヲ設ケ且誠實ニ之ヲ執行スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ又清國語ヲ以テ編製シ且特ニ清國人ノ使用ニ供スル爲メ作製セラレタル書籍册子地圖及海圖ニ關シ日本國臣民ノ有スル登録濟版權ヲ保護スル爲メニ必要ナル規則ヲ制定スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ登録局ヲ設置シ商標及版權保護ノ爲メ今後同國政府ニ於テ制定スヘキ規則ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ保護ヲ求ムル外國商標及版權ノ登録ヲ爲スヘシ  
 日本國法律規則ノ定ムル所ニ從ヒ正當ニ登録セラレタル清國商標及版權ハ日本國ニ於ケル侵害ニ對シ同様ノ保護ヲ受クルコト勿論タルヘシ  
 本條ハ清國ノ安寧ヲ害セムトスル公刊物ノ著作者所有主若ハ販賣人タル日本國臣民又ハ清國臣民ヲ法律ノ正當ナル進行ニ對シ庇護スルモノト解スヘカラス  
 第六條 清國政府ハ成ルヘク速ニ自ラ進テ全國一定ノ貨幣制度ヲ創設シ全國一定ノ流通貨幣ヲ設備スヘキコトヲ約ス右流通貨幣ハ清國內ニ於テ日清兩國臣民均シク法貨トシテ自由ニ一切ノ租稅賦課及其ノ他ノ債務ノ辨濟ニ使用スルコトヲ得ヘシ但シ關稅ハ海關兩ヲ基礎トシ計算シテ支拂フコト勿論タルヘシ

第七條 清國各省ニ於テ商業者及一般人民カ普通及商業ノ爲メニ使用スル度量衡ハ區々一定セス且政府ノ定メタル本位ニ違ヒ清國及外國商人ノ貿易ニ障礙アリ是ヲ以テ清國各省ノ總督巡撫ハ其ノ時ノ狀勢ヲ詳查シ會同協議シテ一定ノ本位ヲ商定シ上奏ノ上之ヲ採用シ全國官民ノ一切取引ニ使用セシメ先ツ開市場ヨリ實施シ漸次内地ニ及ホスヘキコトヲ約ス若新定ノ度量衡ト現行ノ度量衡トノ間ニ差異アル時ハ其ノ差異ノ額ニ應シ増減ノ上公平ニ算定スヘシ

第八條 光緒貳拾四年五月ノ内地水路汽船航通規則及同年七月ノ追加規則ハ實行上不便ノ箇處アルヲ以テ清國政府ハ之ニ修正ヲ加ヘ本條約ニ右新規則ヲ添付スヘキコトヲ約ス此等ノ規則ハ相互ノ同意ニ依リ變改セラルルマテハ其ノ效力ヲ有スルモノトス

第九條 日清兩國間ニ現ニ存在スル凡テノ條約及約定ノ規定ハ本條約ニ依テ改正又ハ廢止セラレサル限り茲ニ其ノ效力ヲ確認ス又日本國ノ政府官吏臣民通商航海運漕工業及一切ノ財產ハ

大清國皇帝陛下又ハ清國政府又ハ清國諸省若ハ地方官衙ヨリ他國ノ政府官吏臣民通商航海運漕工業又ハ財產ニ既ニ附與セラレ又ハ將來附與セラルヘキ一切ノ特權免除及利益ヲ自由且完全ニ享受スヘキコトヲ明ニ茲ニ規定ス

日本國政府ハ日本國ニ在ル清國官吏及臣民ニ對シ帝國法律規則ノ許ス限り成ルヘク優遇ヲ與フルコトヲ努ムヘシ

第十條 兩締盟國ハ直隸省ニ駐屯スル外國軍隊及公使館護衛兵ノ總テ撤退シタル場合ニ

於テ清國ハ直ニ自ラ進テ外國人ノ居住及貿易ノ爲メ北京市内ノ一地區ヲ開クコト竝  
之ニ關スル規則ハ其ノ時ニ於テ雙方協議ノ上決定スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ本條約批准交換ノ日ヨリ六個月以内ニ既ニ外國貿易ニ開カレタル港市ト同  
一ノ條件ヲ以テ湖南省長沙府ヲ外國貿易ノ爲メニ開クヘキコトヲ約ス同開港場在留外  
國人ハ清國居住民ト同シク地方及警察規則ヲ遵守スヘク清國官廳ノ承諾ヲ得ルニ非サ  
レハ該條約港區域内ニ自己ノ地方役場又ハ警察ヲ設置スルコトヲ得ス

清國政府ハ本條約批准交換後直ニ各國人ノ居住及貿易ノ爲メ自ラ進テ盛京省奉天府  
及同省大東溝ヲ開クヘキコトヲ約ス外國人ノ使用ニ供スル爲メニ適當ナル地域ノ撰擇  
竝外國人ノ居住及貿易ノ爲メ定メラルル場所ノ規則ハ日清兩國政府協議ノ上之ヲ定ム  
ヘシ

第拾壹條 清國政府ハ其ノ司法制度ヲ改正シテ日本國及西洋各國ノ制度ニ適合セシムル  
コトヲ熱望スルヲ以テ日本國ハ右改正ニ對シ一切ノ援助ヲ與フヘキコトヲ約シ且清國  
法律ノ狀態其ノ施行ノ設備及其ノ他ノ要件ニシテ日本國カ満足ヲ表スルトキハ其ノ治  
外法權ヲ撤去スルニ躊躇セサルヘシ

第拾貳條 本條約ハ日本文漢文及英文ニテ調印スヘシ然レトモ將來ノ紛議ヲ避クル爲メ  
兩締盟國全權委員ハ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ノ相違アル場合ニハ其ノ相違  
ノ點ハ英文本文ニ照ラシテ之ヲ決定スヘキコトヲ約ス

第拾參條 本條約ハ

大日本國皇帝陛下及

大清國皇帝陛下之ヲ批准セララルヘク而シテ其ノ批准書ハ本日ヨリ六箇月以内ニ成ルヘク速

ニ北京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本條約ニ署名調印スルモノナリ

明治參拾六年拾月八日即

光緒貳拾九年八月拾八日上海ニ於テ之ヲ作ル

大日本國條約改訂委員

公使館壹等書記官從五位勳五等

日 置

益

印



總領事正六位勳五等 小田切萬壽之助 (印)

大清國條約改訂委員

工部尚書 呂海寰

太子少保前工部左侍郎 盛宣懷

商部左侍郎 伍廷芳

關防

附屬第壹號

追加內地水路汽船航通規則

第壹條 日本國汽船所有者ハ水路沿岸ニ於テ貳拾五年ヲ超エサル期間清國臣民ヨリ倉庫及埠頭ヲ賃借スルコト自由ニシテ期限滿了ノ時ハ雙方商定ノ條件ヲ以テ之ヲ繼續スルコト隨意タルヘシ日本國商人ニシテ満足ナル條件ヲ以テ清國臣民ヨリ倉庫及埠頭ヲ賃借スルコト能ハサルトキハ地方官吏ハ總督巡撫又ハ商務大臣ト協議ノ上前記ノ如ク賃借ヲ繼續シ得ルノ條件ヲ以テ公平ナル時價ニテ貸渡スヘキ倉庫及埠頭ヲ設備スルコトヲ取計フヘシ

第貳條 埠頭ハ內地水路ヲ阻碍セス又ハ航行ニ妨ナキ位置ニ限り最近地方ノ海關稅務司ノ認可ヲ得テ之ヲ築造スルコトヲ得但シ右認可ハ故ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス

第參條 日本國商人ハ右倉庫及埠頭ニ對シ其ノ附近ニ於テ同様ノ財産ヲ所有スル清國人ト同様ニ諸稅及賦課ヲ納付スヘキモノトス日本國商人ハ內地運漕業ニ從事スル汽船ノ寄港地ニ於テ前記ノ如ク賃借セル倉庫ニ居住シテ業務ニ從事セシムル代理人又ハ雇員ニハ清國人ノミヲ使用スヘキモノトス但シ日本國商人ハ其ノ事務視察ノ爲メ隨時自ラ

該地ニ出張スルコトヲ得清國臣民ニ對スル清國ノ現存管轄權ハ本項ノ爲メ何等減損又ハ妨礙セラレサルモノトス

第四條 清國ノ内地水路ヲ航行スル汽船ハ沿岸又ハ其ノ上ニ於ケル建設物ヲ毀損シ因テ以テ沿岸所有主ニ及ホシタル損失竝該毀損ノ爲メニ生シタル損失ニ對シ賠償ノ責アルモノトス

若清國ニ於テ小汽船ノ某淺水水路ヲ使用スルコト沿岸ヲ傷害シ接近地ニ損害ヲ及ホスノ虞アル爲メ之ヲ禁止セムト欲スル場合ニ其ノ交渉ヲ受ケタル日本國官吏ハ其ノ故障ノ確實ナルヲ認メタルトキハ日本國小汽船ノ該水路使用ヲ禁止スヘキモノトス但シ清國小汽船モ亦均シク其ノ使用ヲ禁止セラレルコトヲ要ス

外國小汽船及清國小汽船ハ現時内地水路ニ設置セル堰閘ノ工事ヲ傷害シ因テ以テ地方人民ノ用水ニ損害ヲ及ホスヘキ虞アル箇所ニ於テハ之ヲ通過スルコトヲ禁ス

第五條 日本國政府ニ於テ清國ノ内地水路ヲ汽船ノ航行ニ開放セムト欲スル主旨ハ内外商品ヲシテ迅速運輸ノ便宜ヲ得セシムトスルニアルヲ以テ同政府ハ現今又ハ今後清國ノ内地水路ニ使用セラレル日本國汽船ハ其ノ所有者ニ於テ之ヲ希望スルトキハ右等

汽船ノ清國會社ニ轉賣セラレ同國國旗ノ下ニ移サルルコトニ何等阻碍スル處ナカルヘキコトヲ約ス

清國法律ニ依リ登録セラレタル清國會社ニシテ清國ノ内地水路ニ於テ汽船ノ航行ヲ業トスルモノ設立セラレル場合ニ於テ日本國臣民カ該會社ノ株主タルノ事實ハ其ノ汽船ニ日本國國旗ヲ掲クル權利ヲ附與セサルモノトス

第六條 登録セラレタル汽船及其ノ曳船ハ清國形船舶カ從來常ニ禁止セラレタルト同様禁制品ヲ輸送スルコトヲ禁ス本規定ニ背キタルトキハ此ノ種ノ違犯ニ關シ條約ニ規定セル罰ヲ課シ且該船ノ携帶スル内地水路航行證ヲ取消シ該船ハ爾後内河航行ヲ禁止セララルヘシ

第七條 汽船ノ來航ニ慣レサル内地居住民ヲシテ之カ爲メ成ルヘク騷擾セシメサラムコト望マシキニ因リ從來汽船ノ往復セサル内地水路ハ商人ノ便宜ニ應シ成ルヘク漸次ニ之ヲ開放シ且汽船所有者ニ於テ其ノ業務ニ利潤アルヘキ見込アルトキニ限り開放セララルヘシ

從來汽船ノ往復セシコトナキ水路ニ其ノ航通ヲ開カムトスル場合ニ於テハ先ツ最近開

港所在稅務司ニ其ノ旨ヲ申出テ該稅務司ハ之ヲ商務大臣ニ通牒シ同大臣ハ該地方ノ總督又ハ巡撫ト協同シテ本件ニ關スル總テノ情狀ヲ詳查ノ上直ニ許可ヲ與フヘキモノトス

第八條 登録汽船ハ一港内ニ於テ又ハ開港ヨリ他ノ開港ヘ又ハ開港ヨリ内地ヘ及内地ヨリ右開港ヘ往復スルコトヲ得又該船ハ海關ヘ正式ノ届書ヲ差出シタル上航行ノ途中通過スル場所ニシテ貿易地ト認メラレタル所ニ於テ乗客又ハ荷物ヲ陸揚又ハ搭載スルコトヲ得但シ清國政府ノ承諾ヲ得タル場合ヲ除クノ外專ラ内地間ノミ往復スルコトヲ得ス

第九條 荷船又ハ客船ハ汽船ニテ曳クコトヲ得曳カレ行ク船舶ノ舵手及乗組人ハ清國人ニ限ルヘシ總テ船舶ハ其ノ所有者ノ何人タルヲ問ハス内地ヘ向ケ航行スルニ先チ登録ヲ受クルコトヲ要ス

第十條 本規則ハ光緒貳拾四年五月及七月發布ノ内地水路汽船航通規則ノ追加ニシテ右五月及七月ノ規則ニシテ今回協定ノ規則ニ依リ改メラレサル條項ハ全然有效トス本規則竝光緒貳拾四年五月及七月ノ各規則ハ今後必要ニ應シ雙方ノ同意ヲ以テ改正スルコトヲ得ヘシ

明治叁拾六年拾月八日即

光緒貳拾九年八月拾八日上海ニ於テ之ヲ作ル

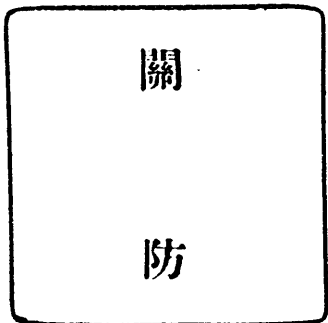
日 置 益 印

小田切萬壽之助 印

呂 海 寰

盛 宣 懷

伍 廷 芳



附屬第貳號

拾四

以書翰致啓上候陳者本條約第叁條ニ於テ清國政府ハ内河航行ニ適スル各種ノ日本國汽船カ清國海關ニ届出テノ上内地水路汽船航通規則及同追加規則ニ依リ貿易ノ目的ヲ以テ清國開港場ヨリ其ノ届ケ出テタル内地ニ航行スルコトヲ承諾セラレ候該條ハ日本國各種汽船ハ其ノ大小ヲ論セス總テ内地水路ヲ航行シ得ルモノナレハ該規則ニ從ヒ必要ナル證書ヲ受ケタル上内地諸港ニ往復スルコトヲ得ヘク清國政府ハ如何ナル場合ト雖モ此等汽船ノ内地航行ヲ阻碍禁止スルヲ得ストノ意義タルハ勿論ノ儀ニ有之候就テハ將來誤解ヲ避ケムカ爲メ總稅務司ニ對シ上記ノ主旨ニ基ツキ諸事取扱フヘキ様御訓令相成度尙ホ何分ノ儀貴答ヲ煩ハシ度此段御照會得貴意候敬具

明治參拾六年拾月八日

大日本國條約改訂委員

小田切萬壽之助 (印)

日置益 (印)

大清國條約改訂委員

呂海寰閣下

盛宣懷閣下

伍廷芳閣下

附屬第參號

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ本條約第參條ニ據レハ内河航行ニ適スル日本國各種汽船ハ其ノ大小ヲ論セス總テ該規則ニ從ヒ必要ナル證書ヲ受ケタル上内地諸港ニ往復スルコトヲ得ヘク清國政府ハ如何ナル場合ト雖モ此等汽船ノ内地航行ヲ阻碍禁止スルヲ得サル旨將來ノ誤解ヲ避クル目的ヲ以テ御申越ノ趣致了承候本委員等曾テ貴委員等ト本條ヲ商議スルニ際シ貴委員等ヨリ御手交相成タル日本國汽船目錄ニ據レハ山陽丸瀨田川丸日向丸浦戸丸寧靜丸平安丸太閤丸吉野丸明光丸福壽丸肱川丸永田丸共同丸蓬萊丸貫效丸瓊港丸錦龍丸全勝丸康平丸等ハ其ノ載量百貳拾噸乃至四百拾噸ニシテ内地水路汽船航通規則ニ依リ必要ノ證書ヲ得テ以テ從來芝罘及滿洲ノ内地諸港ニ往復スルコトヲ許可セラレ其ノ形狀載量ノ故ヲ以テ航行ヲ禁止セラレタルコトナカリシ趣ニ有之候ニ付副總稅務司ヲシテ各關ニ於ケル記錄ヲ取調ヘシメ候處事實御申越ノ通り相違スル所無之旨回報致候

今茲ニ本件ニ付御照會ニ接シ候ニ付外務部ニ對シ前陳ノ事情ヲ考量ノ上可然取扱フヘキ様總稅務司ニ訓示方請求可致候此段拜答得貴意候敬具

光緒貳拾九年八月拾八日

大清國條約改訂委員

伍 廷 芳  
盛 宣 懷  
呂 海 寰

關 防

大日本國條約改訂委員

日 置 益 閣 下

小田切萬壽之助閣下

附屬第四號

以書翰致啓上候陳者光緒貳拾四年七月發布ノ内地水路汽船航通追加規則第九條ノ税金及釐金徴收ノ爲メ吏員任命ニ關スル規定ハ未タ盡ク實行セラレサル所有之右ハ緊要ノ事項ニ付貴國政府ヨリ各省ニ對シ右規定ヲ嚴正ニ施行スル様重テ御訓達相成候様致度因テ貴委員等ニ於テ右請求ニ御同意相成且貴答相煩シ度此段御照會得貴意候敬具

明治參拾六年拾月八日

大日本國條約改訂委員

小田切萬壽之助 (印)

目置 益 (印)

大清國條約改訂委員

呂海寰閣下

盛宣懷閣下

伍廷芳閣下

附屬第五號

以書翰致啓上候陳者本日付貴翰ヲ以テ光緒貳拾四年七月發布ノ内地水路汽船航通追加規則第九條ノ税金及釐金徵收ノ爲メ吏員任命ニ關スル規定ハ未タ盡ク實行セラレサル所有之右ハ緊要ノ事項ニ付貴國政府ヨリ各省ニ對シ右規定ヲ嚴正ニ施行スル様重テ御訓達相成候様致度旨御照會ノ趣致領悉候右ニ關シテハ本委員等ヨリ當該官廳ニ對シ相當ノ處置ヲナス様照會致置候間右様御承知相成度此段拜答得貴意候敬具

光緒貳拾九年八月拾八日

大清國條約改訂委員

伍 廷 芳  
盛 宣 懷  
呂 海 寰

關 防

大日本國條約改訂委員

日 置 益 閣 下

小田切萬壽之助閣下

貳拾

貳拾壹

附屬第六號

以書翰致啓上候陳者北京ニ各國人民ノ居住及營業ノ場所ヲ設置スルコトニ關スル本條約第拾條ノ規定ニ據レハ各國公使館護衛兵及通路護衛兵ニシテ全然撤回セラレタル場合ニ於テハ北京ニ在テ内城ノ外ニ於テ貴我双方ニ都合好ク且故障ナキ場所ヲ擇ヒ各國商人居住營業ノ場處ニ充ツヘキ旨定メラレ候而シテ其ノ境界内ニ於テハ各國商民ノ土地ヲ租借シ家屋倉庫ヲ建造シ營業ノ場處ヲ開設スルヲ許スヘク候尤モ清國人民ノ私有ニ屬スル家屋及土地ノ租借ニ關シテハ其ノ所有者ニ於テ賃貸ノ希望ヲ有スルヲ要シ且其ノ契約ハ抑制強迫ヲ用フルコトナク公平ニ協定セラレヘキモノニ有之候右場處内ノ道路橋梁ハ清國官廳ニ於テ之ヲ管轄經理シ該處ニ居住スル外國人ハ清國住民ト同シク其ノ地方及警察規則ヲ遵守スヘク清國官廳ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ自ラ地方役場及警察ヲ設クルコトヲ得サル儀ニ有之右各國人民居住及營業ノ場處開カレ且其ノ境界劃定セラレタル上ハ從來城内城外ニ散在セル外國人ハ都テ該場處内ニ移居スルコトヲ要シ處々ニ散住シテ以テ清國官廳ノ必要ナル取締ニ不便ナラシムルヲ得サル次第ニ有之候右外國人所屬ノ土地家屋ハ公平ニ其ノ價格ヲ協定シ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ支拂ヒ又其ノ移轉期限ハ其ノ時ニ於テ決定セラレヘシ而シテ其ノ期限

内ニ移轉セサル者ハ何等賠償ヲ要求スルノ權ナカルヘク候本委員等ハ將來不必要ナル交渉ヲ避ケムカ爲メ前記ノ如ク協定シ置クコトノ双方ニ利益アルヲ認メ茲ニ貴委員等ノ考量ヲ煩ハシ且御同意アラムコトヲ希望シ併セテ何分ノ貴答ヲ煩ハシ度此段御照會得貴意候敬具

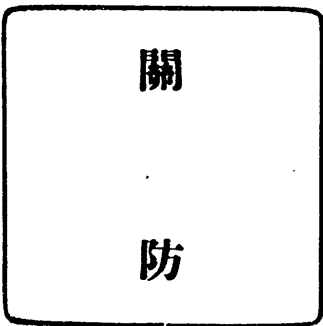
光緒貳拾九年八月拾八日

大清國條約改訂委員

伍 廷 芳

盛 宣 懷

呂 海 寰





大日本國條約改訂委員

日置 益 閣 下

小田切萬壽之助閣下

貳拾四

附屬第七號

以書翰致啓上候陳者本日付貴翰接收北京ニ各國人民ノ居住及營業ノ場所ヲ設置スルコトニ  
關スル本條約第拾條ノ規定ニ據レハ各國公使館護衛兵及通路護衛兵ニシテ全然撤回セラレ  
タル場合ニ於テハ北京ニ在テ内城ノ外ニ於テ貴我双方ニ都合好ク且故障ナキ場所ヲ擇ヒ各  
國商人居住營業ノ場處ニ充ツヘキ旨定メラレ候而シテ其ノ境界内ニ於テハ各國商民ノ土地  
ヲ租借シ家屋倉庫ヲ建造シ營業ノ場處ヲ開設スルヲ許スヘク候尤モ清國人民ノ私有ニ屬ス  
ル家屋及土地ノ租借ニ關シテハ其ノ所有者ニ於テ賃貸ノ希望ヲ有スルヲ要シ且其ノ契約ハ  
抑制強迫ヲ用フルコトナク公平ニ協定セラレヘキモノニ有之候右場處内ノ道路橋梁ハ清國  
官廳ニ於テ之ヲ管轄經理シ該處ニ居住スル外國人ハ清國住民ト同シク其ノ地方及警察規則  
ヲ遵守スヘク清國官廳ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ自ラ地方役場及警察ヲ設クルコトヲ得サル  
儀ニ有之右各國人民居住及營業ノ場處開カレ且其ノ境界劃定セラレタル上ハ從來城内城外  
ニ散在セル外國人ハ都テ該場處内ニ移居スルコトヲ要シ處々ニ散住シテ以テ清國官廳ノ必  
要ナル取締ニ不便ナラシムルヲ得サル次第ニ有之候右外國人所屬ノ土地家屋ハ公平ニ其ノ  
價格ヲ協定シ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ支拂ヒ又其ノ移轉期限ハ其ノ時ニ於テ決定セラレヘシ

貳拾五

而シテ其ノ期限内ニ移轉セサル者ハ何等賠償ヲ要求スルノ權ナカルヘク候本委員等ハ將來  
不必要ナル交渉ヲ避ケムカ爲メ前記ノ如ク協定シ置クコトノ双方ニ利益アルヲ認メ茲ニ貴  
委員等ノ考量ヲ煩ハシ且御同意アラムコトヲ希望スル旨御照會ノ趣致閱悉候右貴翰ニ記載  
セラレタル各項ハ大體ニ於テ御同意致シ差支無之候得共之ニ關スル詳細ノ規則ハ其ノ時ニ  
於テ本條約第拾條ノ規定ニ從ヒ協議ノ上満足ニ取極可申候尤モ右諸規則ト清國及各外國間  
ニ協定セラルヘキ諸規則トノ間ニ本邦ノ不利ニ歸スルカ如キ差別ナカルヘキハ勿論ノ儀ニ  
有之候此段拜答得貴意候敬具

明治參拾六年拾月八日

大日本國條約改訂委員

小田切萬壽之助 (印)

日置益 (印)

大清國條約改訂委員

呂海寰閣下

盛宣懷閣下

伍廷芳閣下